



## SUPER GT 2021 LM corsa Shake down Test Report

日付:2月27-28日 天候:晴 コース:岡山国際サーキット

### Shake down Test Summary

今季から使用するマシンとタイヤを変更するLMcorsa  
昨シーズン終了後から急ピッチで製作してきたGR Supraがついに完成し  
2月27日-28日に岡山国際サーキットでシェイクダウンテストを決行した。

いまだ終息が見えない新型コロナウイルス感染症だが、昨シーズンはモータースポーツを始め多くのスポーツイベントに影響を及ぼした。4月に開幕を迎える予定だった2020年のSUPER GTは感染拡大防止のために開幕が7月にずれ込み、開催サーキットやスケジュール、観戦方法など多くの見直しを受けた。

昨シーズンも全戦にLEXUS RC F GT3で参戦したLMcorsaは、2015年から同マシンを使っていて6年目となった。参戦初年度から数年はマシンの開発を担っていたため、上位に入ることができない歯がゆいときを過ごすこともあった。それでも2017年シーズンからは大幅に戦闘力がアップし、入賞や表彰台を狙えるパフォーマンスを発揮。2018年の第4戦タイでは3位で表彰台に登り、2019年の第6戦オートポリスではLEXUS RC F GT3で初の優勝を果たした。

2020年シーズンもシリーズランキング上位で戦うことが期待されたが、開幕からライバル勢に遅れをとり苦しいシーズンを送ることとなった。最終戦で9位に入りポイントを獲得したものの、チームの誰もが満足するシーズンではなかった。



チームは2020年シーズンの終盤に、6年に亘って戦ってきたRC F GT3からマシンをスイッチすることを検討。完成したレーシングカーを自動車メーカーが販売しているGT3は、いまやグローバルのレースシーンで絶大な支持を受けている。だが、GT3は自動車メーカーが生み出した完成型のレーシングカーで、マシンをいかにセットアップすることがチームの主題となる。

LMcorsaが参戦しているSUEPR GTのGT300クラスは、このGT3車両のほかに共通シャシーとエンジンを採用するマザーシャシー（MC）、規定に沿って一からマシンを製作するJAF GT車両の3種類のマシンが混走している。チームはエンジニアがマシン作りを学べ、レギュレーションでも手を入れられる範囲の広いJAF GT車両を次期マシンの候補とし、GR Supraが、2021年シーズンを共に戦うマシンとなった。

2021年シーズンを戦うチーム体制は、本来ならば大阪オートメッセで発表されるのが恒例となっていたが、今年はコロナ禍で開催中止となる。そのため、1月21日にSNSやオフィシャルサイトを通じて体制が発表された。ドライバーは昨シーズンと同様で、吉本大樹選手と河野駿佑選手のコンビとなり、マシンはGR Supra、タイヤは2年ぶりにダンロップを履くこととなった。

体制が決定したあとは、GR Supraの製作ペースを上げるべく、チームはマシンの製造元に1月からエンジニアを派遣する。そして、3月6-7日に控えたSUPER GTの公式テストの2週間前というタイミングでGR SupraがLMcorsaのガレージに到着した。ガレージに到着したGR Supraだが、すぐに走り出すわけではなく、ドライバーのシート合わせや外装のカラーリング、電装系の細かいセットアップなどを施し、シェイクダウンテストの前日によくエンジンが点火された。ガレージにマシンが到着してからエンジニアは、懸命な作業を続け、ようやくサーキットへ向かう準備が出来たのだった。

シェイクダウンテストは、2月27日-28日の2日間に亘って岡山国際サーキットで実施された。両日ともナンバー付きの車両や多くのレースカーが混走するスポーツ走行枠を利用。まずは、GR Supraの初期トラブルやマシンの素性を掴むことがメインのテストとなった。

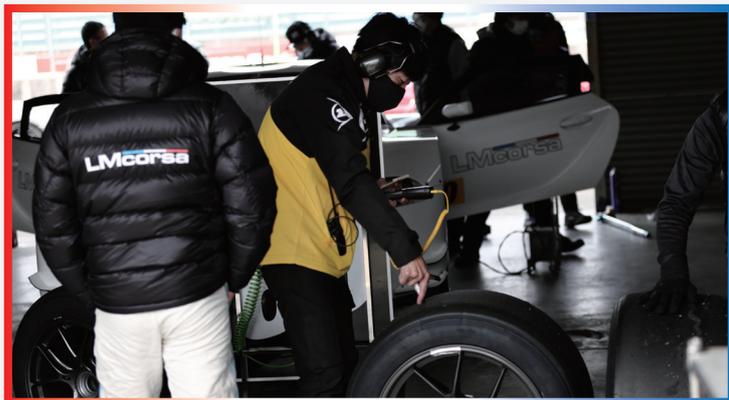
2月27日（土）は前日と同じく冷え込んでいて気温、路面温度ともに10℃に満たない中でシェイクダウンテストはスタートする。9時からの走行枠でまずGR Supraに乗り込んだのは吉本選手で、慎重にコースインして周回すると1周でマシンをピットに戻す。

メカニックはトラブルがないか車両全体を確認。2枠目も走行してすぐに各部をチェックするという作業が続いた。3枠目には河野選手もステアリングを握り、GR Supraでの初走行を果たした。初日のテスト内容は初期トラブルを見つけることだったが、深刻な問題は見つからずチーム全体に安堵の雰囲気が出た。



テスト2日目となった28日(日)も冷え切ったコンディションだったが路面は2日間ともにドライ。この日は3つの走行枠があり、マシンの素性をチェックすることとなった。1枠目は吉本選手が中心となり各パーツのセットアップを含めた走行テストを実施する。2枠目も吉本選手が走行を担当し、3枠目は河野選手がステアリングを握った。最後の3枠目では30分の走行時間を走り続けて、周回を重ねたときの確認も行なった。2日間に亘って実施したシェイクダウンテストは想定していたメニューを消化し、心配された初期トラブルもなく終えることとなった。

今回のシェイクダウンテストで得たデータを元にして、短い期間になるがマシンを整備し、1週間後に同じ岡山国際サーキットで実施されるSUPER GTの公式テストに向かう。



## Team Comment



Driver : 吉本 大樹

公式テストの前にもどうしても走らせたかったので、1週間前というギリギリのタイミングですがシェイクダウンテストを実施できて良かったです。このテストに向けて懸命な作業を続けてくれたチームに感謝します。GR SupraはJAF GT車両でGT3に比べて調整する箇所が多くあります。そのためデータを取ることが重要で、使用するタイヤも変わるので尚更です。走ってみて想定と異なる問題はありましたがトラブルはなく、しっかりしたマシンというのが第一印象です。新しいパッケージをどうやってまとめていくか、そして合わせ込むかがチームとしてのカギになります。開幕戦までにマシンやタイヤの理解度を増やしていけば、結果はでると思っています。



Driver : 河野 駿佑

まずは新しいマシンを作り上げてくれたチームに感謝します。GR SupraはGT3よりもリアに動く印象で、フォーミュラに似ているところがあると感じました。調整する範囲も広いので、マシンを作っていく楽しみや期待感があります。2日間ともにタイムを求めるのではなく、素性やセットアップの感度などを確認しました。乗りづらさを消していく作業も同様に行なっていったのですが、最後の枠では連続周回ができ徐々に乗りやすくなっていきました。JAF GTは触れるパーツや調整幅が大きいので、私の経験などを伝えながらマシンが違った方向に向かわないようにできればと思います。昨シーズンは厳しい戦いになりましたが、今季は良いマシンを一から作り上げて結果を残したいです。